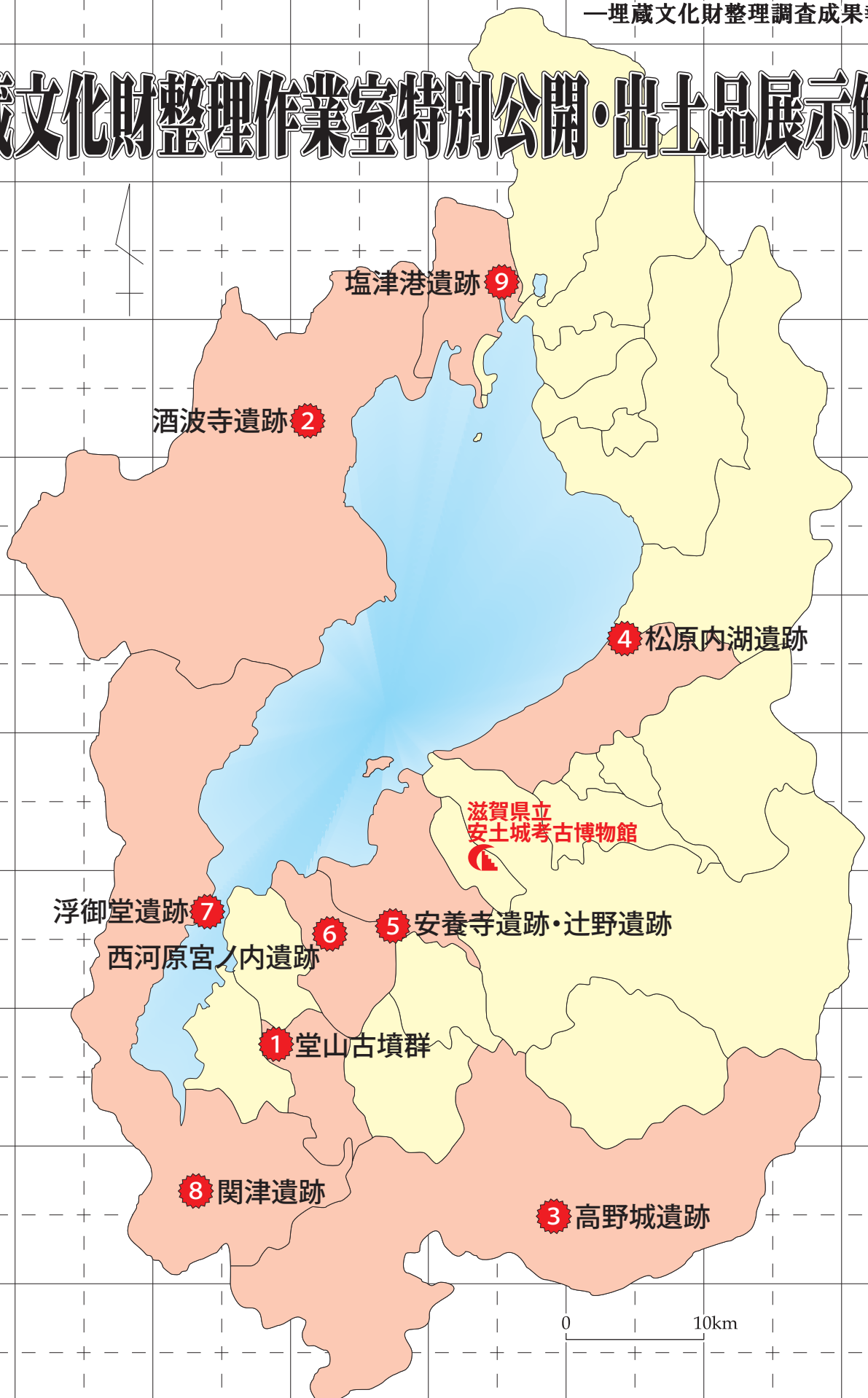


埋蔵文化財整理作業室特別公開・出土品展示解説



平成20年2月24日(日)

財団法人滋賀県文化財保護協会

整理調査成果報告会 ―整理作業室特別公開・出土品展示― について

財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会から依頼を受けて県内各地で埋蔵文化財の発掘調査を行っています。発掘調査には、現地で遺跡を発掘して得られた情報を記録する現地調査と、現地調査で得られた情報と土器などの出土品から得られる情報をあわせて遺跡の時代や性格・特徴などをとりまとめる整理調査があります。調査整理課は整理調査を担当しており、その普段の作業の様子は博物館の回廊展示として窓越しにご覧いただいているところです。

発掘調査で得られた情報は「現地説明会」を開催していち早く公表していますが、整理調査を通して新たな知見が得られることも多くあります。このことから、整理調査の成果を公開する企画として、調査整理課では「整理調査成果報告会 あの遺跡は今」を平成17年度から実施しています。ここでは調査成果の報告会のほか、出土品に直接触れながらの整理作業やレプリカ制作が体験できる企画、さらに整理作業の様子や出土品の特別公開を行っています。

整理作業室特別公開は、土器の復元や実測作業など、遺跡からの出土品を調査している様子を間近に見学し、体験することができます。また、室内では報告会で取り上げた遺跡と文字資料を中心に整理調査中の主な出土品の展示を行い、職員が解説します。

この機会に埋蔵文化財の調査成果や出土品を間近に見学し体験していただくことで、滋賀の歴史を体感し、文化財への親しみと理解を深めていただき、豊かな未来を創造していただければ幸いです

平成19年度に調査整理課で整理調査を実施している遺跡

No.	遺跡名	所在地	調査原因	報告書	主な時代
1	堂山古墳群	栗東市	国道建設		古墳／近世
2	酒波寺遺跡	高島市	農道建設	○	古墳／中世
3	高野城遺跡	甲賀市	高速道路	○	戦国～近世
4	松原内湖遺跡	彦根市	下水処理場		奈良／中・近世
5	安養寺遺跡・辻野遺跡	近江八幡市	農道建設	○	奈良～中・近世
6	西河原宮ノ内遺跡	野洲市	県道建設		奈良
7	浮御堂遺跡ほか（湖西南部地域）	大津市	琵琶湖開発	○	平安～中・近世
	烏丸崎遺跡・津田江湖底遺跡	草津市		○	縄文～古墳
	志那湖底遺跡・七条浦遺跡	草津市			縄文～中・近世
8	関津遺跡	大津市	ほ場整備 国道建設	○	旧石器～近世
9	塩津港遺跡（起請文木簡の保存処理）	西浅井町	河川改修		古代～中世
10	入江内湖遺跡	米原市	国道建設	○	縄文～古墳
11	野村北遺跡	東近江市	ほ場整備		奈良～中世
12	赤野井浜遺跡	守山市	河川改修		縄文～弥生
計	12事業（21遺跡）			7冊	

まぼろしの古墳

遺 跡 名 堂山（どうやま）古墳群
 所 在 地 栗東市六地藏
 調査年度 発掘調査（平成 18 年度）
 整理調査（平成 19 年度・20 年度）
 調査原因 国道 1 号バイパス
 概 要 発掘調査では木棺直葬墳、溝、墳丘
 状盛土遺構、治山跡を検出しました。木
 棺直葬墳からは管玉、溝（SD-5）からは
 古墳時代後期から奈良時代にかけての
 須恵器や近世の陶器などが出土しまし
 た。墳丘盛土状遺構からは石器剥片が
 出土しました。



器台

展示説明 器台や甕、甕は沈線と波状文で飾られています。古墳時代の須恵器は、横穴式石室を埋葬施設とする後期古墳の副葬品に多く用いられました。特に器台は古墳以外で見つけることはあまりなく、副葬品専用の器形であるといえます。また、大型の甕は横穴式石室の入り口付近で見つけることもあります。

堂山古墳群には 3 基の古墳があり、うち 1 基の埋葬施設は横穴式石室であることが知られていましたが、見つかった須恵器から、周辺には他にも古墳が存在していたことがわかりました。



管玉



土玉



大型甕



壺



杯蓋



小型壺



杯身

寺院関連の鑄造工房と埋没古墳

遺 跡 名 酒波寺（さなみでら）遺跡

所 在 地 高島市今津町酒波

調査年度 発掘調査：平成19年度

整理調査：平成19年度

調査原因 県営農道整備事業

概 要 中世における酒波寺の様子を

今に伝える『青蓮山絵図院内』に記されている「傳法院」と推定される敷地内を発掘調査したところ、寺院に関連する中世の鑄造

関係の工房遺構が見つかりました。また、酒波東古墳群を構成する横穴式石室のほか、縄文土器、弥生土器、古代の土器も見つかっています。

展示説明

鑄造工房遺構からは、るつぼや銅滓・鉄滓が見つかりました。るつぼには緑青が認められることから、銅製品の鑄造を行っていたことがわかりました。また、鉄滓は小鍛冶に伴うものと考えられます。

宗教活動に関連するものとしては、瀬戸鉄釉花瓶^{てつゆうけびょう}や剃刀^{かみそり}があります。

埋没していた横穴式石室から出土した遺物は、須恵器^{すゑき}（杯・短頸壺^{たんけいこ}）、耳環^{じかん}、鉄製品^{てつせいひん}（長頸鏃^{ちやうけいそく}・刀子^{とうす}・鉄刀小尻金具^{てつばこしり}）があり、いずれも6世紀末頃のものです。

縄文土器は早期前半の黄島式の押型文土器で、隣接する酒波三つ叉^{さなみまた}遺跡でも見つかっています。弥生土器は中期のものが中心ですが、前期にさかのぼるものもわずかながら含んでおり、弥生時代の遺跡の分布を考えていく上での貴重な資料となりました。



調査区全景



横穴式石室



須恵器



耳環

土器の文字から暮らしがみえる = 通い徳利 =

遺跡名 高野城（たかのじょう）遺跡
所在地 甲賀市甲賀町高野地先
調査年度 発掘調査（平成16年度～18年度）
整理調査（平成18年度・19年度）
調査原因 近畿自動車道名古屋神戸線
概要 高野城は甲賀武士である高野氏の居城と言われています。調査では掘削された平坦地や道、堀、江戸時代以降の里山管理に伴う溜め池などの遺構が発見されています。

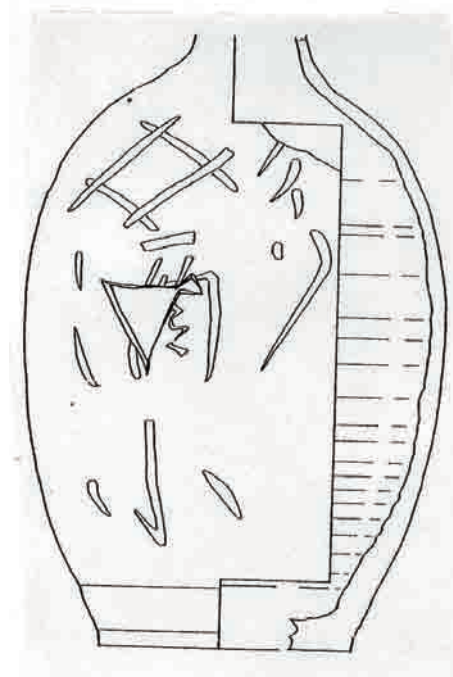


上空から見た高野城遺跡

展示説明 「通い徳利」とは、酒屋で酒を容器に詰めて販売するときに貸し出された容器で、大（一升）・中（五合）・小（二合半）の大きさがあります。17世紀末から生産が始まり、18世紀中頃に最盛期を迎えます。当初は壺に墨で文字が書かれていたようですが、小売りの需要が増えたため通い徳利が大量生産され、その結果として「釘書き」されるようになりました。出土品は瀬戸美濃焼きの陶器で鉄釉がかけられたものです。出土品の右肩には「オイソ」と書かれ、その左側には屋号の菱井桁（※）と「酒」「小」の文字があります。このオイソが安土の老蘇ならば、遠く高野までこの徳利は通ってきたことになります。割れて読めませんが、裏にも文字が書かれています。



瀬戸美濃焼陶器「通い徳利」



土器の実測図

物資輸送にかかわった遺跡

遺跡名 松原内湖（まつばらないこ）遺跡
所在地 彦根市松原町地先
調査年度 発掘調査：平成18年度・19年度
整理調査：平成19～21年度（予定）
調査原因 下水道浄化センター建設
概要 調査地は旧松原内湖の岸边に位置し、縄文時代から江戸時代にかけての遺構・遺物などが発見されています。中でも古代（奈良時代～平安時代前期）のものが最も多く、竪穴住居や柱穴、須恵器や土師器などの土器類が良好な状態で発見されました。

展示説明 須恵器の杯の底部には墨で「山家（やまやけ）」と書かれています。また須恵器の杯底部などを硯の代わりとして使用した転用硯も数点出土しています。これらのことから、松原内湖遺跡には役人や僧侶など文字を使う人々に関わる施設があったと考えられます。他にも、内面に暗文（金属容器の光沢を模した紋様）が施された土師器の皿、製塩土器、細身で長い頸を持つ長頸壺など、主に官衙（的）遺跡や交通の要衝に立地する遺跡から多く出土する遺物も発見されました。

周辺には古代の港があったと推測される入江内湖遺跡や今年度の発掘調査で物流拠点であることが明らかとなった六反田遺跡があり、また琵琶湖と東山道とが近接する場所でもあるため、これらを掌握する官衙施設があったと考えられ、松原内湖遺跡の位置や出土遺物を見るとその官衙施設の一角である可能性もあります。



墨書土器



長頸壺



転用硯

安養寺廃寺関連の遺物

遺 跡 名	安養寺（あんようじ）遺跡・辻野（つじの）遺跡
所 在 地	近江八幡市安養寺地先
調査年度	発掘調査：平成 18 年度 整理調査：平成 19 年度
調査原因	県営農業農村整備事業
概 要	発掘調査では、飛鳥・奈良・平安時代を中心に古墳時代終末期から江戸時代までの遺物が出土しました。主な遺物としては、古墳時代の須恵器（壺・甕・坏）、古代の土師器（皿・坏）・須恵器（蓋坏・皿・甕・高杯・浄瓶）・瓦、江戸時代の竹製導水管とその繋手が出土しています。



墨書土器「田次□」



墨書土器「田中」

展示説明	安養寺廃寺に関係すると思われる遺物は、南東に向けて延長すると「堂立」と呼ばれる推定安養寺廃寺に向かう溝から出土しました。出土した遺物の中でも軒丸瓦と浄瓶は特に寺院との関連が深いと考えられます。今回出土した瓦は「たんべんはちようれんげもん のきまるがわら単弁八葉蓮華文軒丸瓦」という蓮の花をデザインしたもので、白鳳寺院の軒先を飾っていました。また、同文の瓦が周辺でも採集されています。浄瓶は仏前に供えるための聖水を入れた容器で、寺院跡でしばしば出土するものです。 また、この溝からは文字が判読可能な墨書土器が 2 点出土しています。須恵器の蓋の内面には「田次□」、須恵器の坏の底面には「田中」と書かれています。これらの墨書は、人名もしくは地名を現していると考えられます。 安養寺廃寺の伽藍に関わる直接的な遺構は検出されませんでした。寺院に関わる新資料を得られたことは貴重な成果といえます。
------	---

古代の官衙関連遺跡

遺跡名 西河原宮ノ内（にしがわらみやのうち）遺跡
所在地 野洲市西河原
調査年度 発掘調査：平成13～15・17～19年度
整理調査：平成19年度・20年度（予定）
調査原因 主要地方道建設
概要 南北方向に向きを揃えた大型建物（倉庫）や溝が見つかり、年号を記した木簡、木簡の削り屑、墨書土器、木製鞍とともに、祭祀や鍛冶に関連する遺物も出土しています。

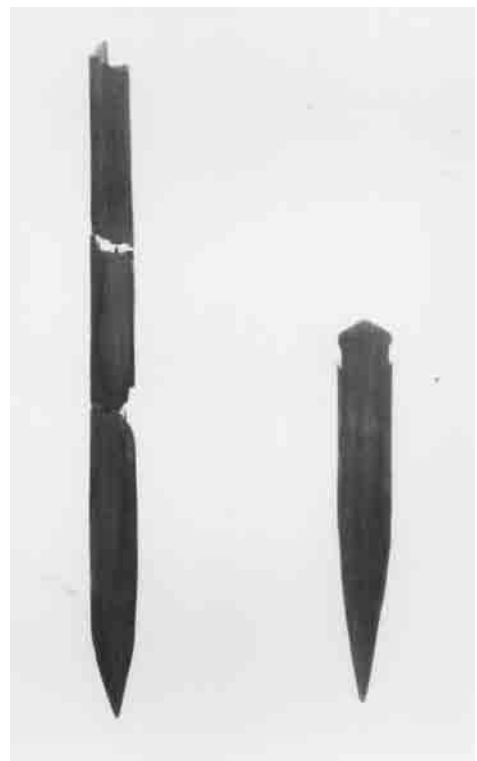


木製鞍（前輪）



馬形代

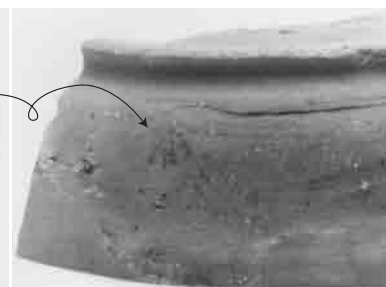
展示説明 木製の鞍は、馬挟の角度および取り付け角度を考えあわせると、乗馬用鞍の前輪と考えられます。馬挟にある左右2個ずつの切り込みは居木をはめ込むためのものです。当時の西河原周辺は「馬道郷」と呼ばれており、官道とそれに関連する施設があると考えられていました。この鞍は、役所間の連絡用の馬に着けられていたものと考えられます。



斎串

馬形代は馬を横から見た形を表現したものです。斎串とともに、当時の役人が行なう公的なまじないに用いられました。

なお、墨書土器は3文字読み取れますが、残念ながら意味は不明です。



「有
□利？
□原？
」

墨書土器（須恵器 杯B）

近江の玄関口 田原道と関津浜

遺 跡 名	関津（せきのつ）遺跡
所 在 地	大津市関津一丁目
調査年度	発掘調査：平成16～19年度 整理調査：平成17～22年度（予定）
調査原因	県営ほ場整備事業 国道422号建設

概 要 県内で初めて後期旧石器時代の角錐状石器が出土したほか、縄文時代から江戸時代までの遺構と遺物が見つっています。



土馬

なかでも、奈良時代から平安時代前期は、『続日本紀』に記述のある「田原道」とみられる幅員18mの道路跡、道路沿いに建ち並ぶ建物群、多数の官衙的遺物が見つっています。また、平安時代中期は畠跡、平安時代後期から鎌倉時代は多数の建物、県外から持ち込まれた大和型瓦器を中心とする土器類や中国から輸入された磁器が多量に出土しています。室町時代は、瀬田川東岸で江戸時代の関津浜の前身と考えられる港湾施設の一部が見つっています。

展示説明 古代（飛鳥時代から平安時代前期）の宮都、官衙（役所）、寺院などの遺跡では、計画的に配置された大型建物や井戸のほか、官衙的遺物と呼ばれる文字資料（木簡、墨書土器、硯）、暗文土師器、土馬、緑釉陶器、製塩土器、瓦、銭貨、木沓など集落遺跡からはあまり出土しない遺物が出土します。

関津遺跡では、道路の側溝、建物周辺、井戸などからこれらの遺物が多数出土しています。なかでも、羊もしくは龍を象った形象硯は国内で数点しか見つからないものです。風字硯は、県内では数点しか出土していません。また、飛鳥時代の溝からは日本最古級の墨書土器が出土しており、遺跡の性格を考えるうえで注目されます。

鎌倉時代の河跡からは、まじないに用いたと考えられる呪符木簡、全国的にも類例が少ない絵画木板も出土しています。



墨書土器（須恵器の蓋に「中」と墨書）

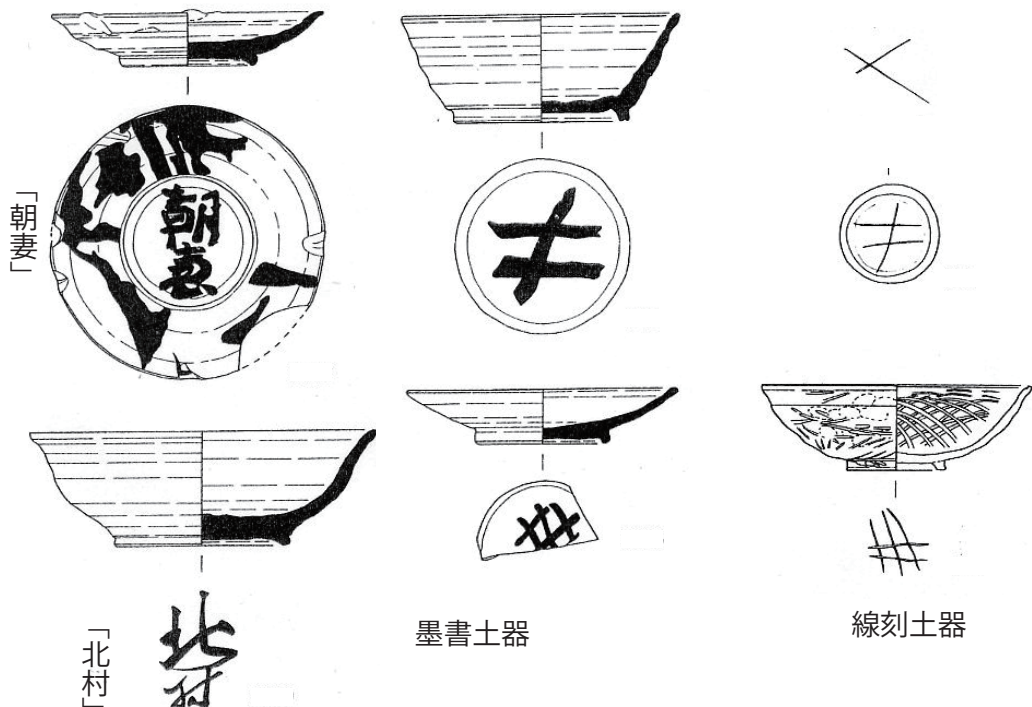
琵琶湖の親郷・堅田の実像に迫る文字資料

遺跡名 浮御堂（うきみどう）遺跡
所在地 大津市堅田地先
調査年度 発掘調査：昭和56・57年度
整理調査：平成12～19年度
調査原因 琵琶湖開発事業

概要 近江八景の一つである浮御堂
周辺の湖中に広がる湖底遺跡で
す。約2mの堆積層の中からは、
古墳時代から現代にいたる多種多様の遺物が出土しました。これらの遺物
からは、堅田の人々が「堅田御厨網人」として琵琶湖での漁業を主たる生
業とし、経済的・文化的にも活発に活動していたことが裏付けられました。



展示説明 浮御堂遺跡から出土した土器類に書かれているのは、「朝妻」「北村」「右
坊」や「大」「万」など、地名・人名・施設名あるいは縁起の良い文字の他に、
「×」「#」「キ」の様な記号があります。これらは、食器類に書かれてい
ることから、文字は食器を提供した人・場所や数量を示し、招福や魔除
けの意味を持つ記号を書いた食器で飲食を共にすることによって、堅田
を中心とした人・地域の絆や連携の深めあっていたと考えられます。



木簡の保存処理

1. 木簡の取り上げと保管

遺跡から出土する木簡は、木片に墨で字などが書かれています。しかしながら、長い間地下に埋もれていたため木質が劣化しています。なかには文字が消えかかっているものや、出土後に空気に触れて全体に黒く変色しているものが見られます。

木簡が出土した場合、直射日光をさけ、乾燥を防ぐため、水をたっぷりと含ませたスポンジを当てて応急処置します。そして、注意して取り上げ室内の冷暗所に保管します。さらにカビなどの発生に備えて、防腐剤を使用することもあります。

消えかかった墨書の内容を判読する方法として、木簡を赤外線テレビカメラで見る方法があります。文字の墨の部分は炭素で構成されているため赤外線をよく吸収するため、薄くなった文字でも赤外線テレビカメラを使えば見る事ができるからです。

2. 木簡の保存処理

劣化した木簡を強化するために真空凍結乾燥法という保存処理法を実施します。真空凍結乾燥法とは、水分を含んだものを -30°C 以下で急速に凍結し、さらに減圧して真空状態で内部の水分を昇華させて乾燥させる方法です。この方法はインスタント食品や薬品などに広く利用されています。

処理法の特徴は、乾燥による収縮や変形が少なく、処理したものは色が明るくなり、その結果、墨書などが見やすくなります。保存処理された木簡は、取り扱いに注意するとともに、乾燥した状態で保管することが必要です。



墨書資料 赤外線写真



墨書資料(関津遺跡)



赤外線テレビカメラ



真空凍結乾燥機

真空凍結乾燥法の処理工程

- ①漂白処理(変色の原因となる金属イオンを薬剤で除去する)
- ②PEG含浸処理(PEGの濃度を20%から60%まで徐々に上げる)
- ③凍結処理(前処理した木簡を -30°C に冷却した真空凍結乾燥機に入れる)
- ④真空処理(乾燥庫内を真空状態にして乾燥させる)
- ⑤表面処理(エチルアルコールで洗浄して仕上げる)
- ⑥保管・展示・活用

あの遺跡は今!⑥

—埋蔵文化財整理調査成果報告会—

会場案内図

- ①調査成果報告会『遺跡出土の文字資料』
- ②出土品レプリカ制作体験『木筒をつくろう』
- ③整理作業室特別公開・出土品展示
- ④整理作業体験

開館 15 周年記念
「信長と安土城」
開催中!! (～3/30)

特別展示室

博物館
入口

報告会『遺跡出土の文字資料』
会場へ (2階セミナールーム)

受付

会場

受付

③出土品展示 (主な出土品)

③出土品展示 (文字資料関係)

③整理作業公開

③整理作業室特別公開・出土品展示

土器の復元や実測作業など、遺跡からの出土品を調査している様子を間近に見学し、体験できます。

また、報告会で取り上げた遺跡と文字資料を中心に、整理調査中の主な出土品を展示し、職員が解説します。

※現在整理調査中の主な遺跡

関津遺跡、浮御堂遺跡(大津市) 堂山古墳群(栗東市)
西河原宮ノ内遺跡(野洲市) 高野城遺跡(甲賀市)
松原内湖遺跡(彦根市) 酒波寺遺跡(高島市)
安養寺遺跡・辻野遺跡(近江八幡市)

◇時間:午前9時から午後5時まで

書籍販売

③整理作業公開

③整理作業公開

②レプリカ制作体験
「木筒をつくろう」
(体験を見学できます)

②出土品レプリカ制作体験『木筒をつくろう』

遺跡から出土する「木筒」「人形(ひとがた)」などのレプリカ作りが体験できます。

作業前には調査員により解説を行います。

◆時間:午前11時/午後3時30分の2回
(各回一時間程度)

◆費用:300円(材料費)

◆定員:各回20名(事前申し込み者優先)

①調査成果報告会『遺跡出土の文字資料』

今年度に整理調査を実施した遺跡の中から、「遺跡出土の文字資料」をテーマに、スライド等を用いて調査員が調査成果を報告します。

◇会場:2階セミナールーム

◇時間:午後1時から3時まで

◇定員:140名(当日受付)

◇報告遺跡:野洲市西河原宮ノ内遺跡

(奈良時代の墨書土器と官衙関連木筒)

大津市関津遺跡

(県内最古級の墨書土器)

大津市浮御堂遺跡

(墨書土器・線刻土器と水辺の民間信仰)

④整理作業体験
(拓本)
(トレース)

④整理作業体験

土器の美しい文様を拓本する作業など、整理調査が実際に体験できます。

出土品に直接触れながらの作業は、滋賀県の歴史を体感できる貴重な機会です。

◇時間:午前9時から午後5時まで

あの遺跡は今!⑥

—埋蔵文化財整理調査成果報告会—

平成20年(2008年)2月24日(日)

財団法人滋賀県文化財保護協会